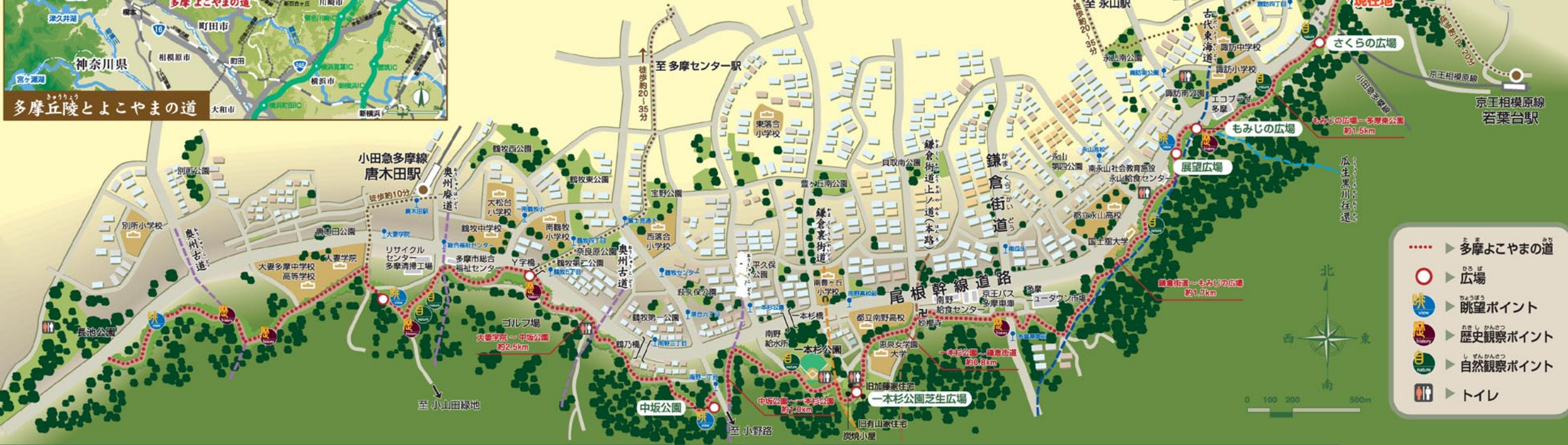




多摩丘陵とよこやまの道

「多摩よこやまの道」案内



- 多摩よこやまの道
- 広場
- 🏞️ 眺望ポイント
- 🏰 歴史観察ポイント
- 🌿 自然観察ポイント
- 🚻 トイレ

横たわる美しい尾根のシルエット

多摩丘陵は武蔵の国府（府中）から眺めると横に長く連なる山々でした。夕暮れ時にシルエットとして浮かぶその美しい姿は、万葉時代の人々から「多摩の横山」、「眉引き山」などと呼ばれていました。

はらかな都へ～横山の尾根道

多摩丘陵の尾根道に当るこの道を「多摩よこやまの道」と名付け、散策路として整備しました。この尾根道は古代より武蔵野と相模野の双方を眺められる高台として、また西国と東国を結び交通の要衝として活用されてきました。

この東西に伸びる尾根筋には鎌倉古道（鎌倉街道早ノ道、鎌倉街道上ノ道本路、軍事戦略鎌倉道）や奥州古道、奥州廃道、古代の東海道などの重要な歴史街道（古街道）が南北に交差し、その痕跡が各所に残され、また様々な伝説等も語り継がれています。

古代～中世～江戸時代に渡って政治、軍事、文化、産業、社寺参詣などを目的として、東国西国間の交易を行う商人や武士団、諸国雲遊を行脚する巡礼者や部の貴人・官人、また幕末には新道組ゆかりの人々も行き来したと推測され、歴史とロマンを感じることのできる道です。

万葉ロマン～防人・見返りの峠道

万葉歌では望郷や別れを惜しむ道筋として「多摩の横山」が詠われています。古代、国防警備の目的で北九州に配置された防人という兵士たちは東国から陸路で都へ、さらに難波津（現在の大阪府の海岸）から船で瀬戸内海を通り九州へ向かいました。再び生きては戻れない覚悟の彼らが、この「多摩よこやまの道」の尾根で故郷を振り返りながら、家族との別れを惜しんだ姿が浮かびます。

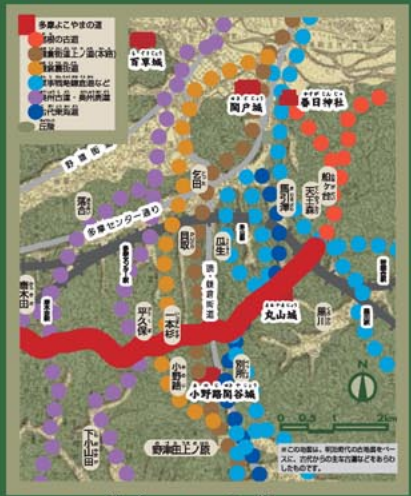
多摩丘陵～里山の自然

「多摩よこやまの道」の尾根道は暮らしの道でもありました。農林業が生活の中心だった時代には、多摩丘陵一帯に田園風景が広がっていました。「多摩よこやまの道」には多摩の農村風景が所々に残されています。多摩丘陵の南側（町田市、川崎市）、北側（多摩市、八王子市）の両岸を眺めながら、尾根沿いに残された里山ともふれあえる道です。

歴史監修 宮田太郎

赤駒を山野に放し捕りかにて
多摩の横山徒歩ゆか遣らむ

万葉集（第二十、四四一七）
豊島郡の上十椋楯部荒虫が妻宇津部黒女



多摩の尾根道と古道

※「多摩よこやまの道」を除く古道は推定のルートです。危険な崖や私有地などがあり、現在は通行できない箇所があります。

関東の鎌倉古道



散策の約束

次の約束を守って楽しく散策しましょう。

- ゴミは各自で持ち帰ります。
- たばこの投げ捨ては山火事の原因になります。絶対にやめましょう。
- 自然の植物はみんなのものです。植物を採るのはやめましょう。
- 夜間の利用はご遠慮ください。
- 山道や木階段があります。また季節によりマムシやスズメバチが出る場合があります。十分に注意して散策しましょう。
- 散策ルートの近くには私有地があります。むやみに立ち入らないようにしましょう。